

# 公私立大学実験動物施設協議会平成30年度総会議事録

【総 会】13:00～14:50

日 時：平成30年6月1日（金）

場 所：沖縄コンベンションセンター

会員（施設）：183名

出席会員（施設）：105名

委任状提出会員（施設）：43名

代議員（代理出席を含む）：149名

来 賓：7名

シンポジスト：2名

オブザーバー参加：1名

出席者合計数（代議員＋オブザーバー）：159名

## 1. 開会の辞：

下田耕治副会長（慶應大）から出席会員（施設）数と委任状数の総計が過半数を上回るため本総会の成立が報告され、公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という）の平成30年度総会の開会が宣言された。

## 2. 黙祷：

平成30年度に逝去された公私動協前役員、安藤隆一郎先生（東北医薬大）に哀悼の意を表し、出席者全員で黙祷を捧げた。

## 3. 会長挨拶：

喜多正和会長（京都府立医大）から来賓が紹介された。その後、本総会が本協議会の30周年にあたる総会であることが報告され、その記念事業として、「実験動物の感染症 その影響と対策」のCD-ROMおよび「何でも質問箱集」の冊子を会員宛に謹呈することが報告された。また、本年2月頃に会員に配布された「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する解説書（株）アドスリー発行」も記念事業の一環として謹呈されたことおよびその内容が本総会のシンポジウムで講演されることが伝えられた。また、総会翌日のサテライトミーティングⅡ（沖縄科学技術大学院大学の見学）に参加申込者が80名超えの盛況であることが報告された。遠方にもかかわらず来賓を含め多数の参加者があったことに対して感謝の意が表され、総会の企画実行担当者に対する労いの言葉が添えられた。

## 4. 来賓紹介：

喜多会長から、以下の7名の来賓ならびにシンポジウム演者のお一人である川越匡洋様（環境省 自然環境局 総務課 動物愛護管理室）が紹介された。

文部科学省研究振興局学術機関課研究設備係長（併）研究支援係長	濱崎 拓郎 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課ゲノム研究企画調整官	宅間 裕子 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究・脳科学係	穂刈 由樹 様
国立大学法人動物実験施設協議会会長	甲斐知恵子 様
厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会	塩谷 恭子 様
厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会	今井 俊夫 様
厚生労働省大臣官房厚生科学課健康危険情報分析官	大曾根 誠 様

## 5. 来賓挨拶

以下の方々からご挨拶をいただきました。

瀨崎 拓郎 様：動物実験は社会の理解の下で実施することが求められるため、引続き、大学としての信頼、地域の安全と安心に配慮して、動物実験を適切に実施して頂きたい旨のご意見を賜った。また、当日配付の「平成 30 年度公私立大学実験動物施設協議会総会配付資料 - 学術研究を取り巻く動向 - 」をもとに、高等教育に関する将来構想ならびに若手研究者育成のための環境整備を加えた資料の概略が説明された。昨今の大学においては、厳しい財政事情や大学改革等という現状があるが、各大学の特色や強みを活かしつつ、全国的規模で一体して連携し、共同利用・共同研究体制の強化を図ることが提唱された。

宅間 裕子 様：当日配付の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下、「基本指針」という）について」の概要を説明され、動物実験の実施にあたっては動物実験の機関管理が社会から理解されることが前提である旨が述べられた。そのため、情報公開と外部検証の重要性が強調され、文科省が外部検証に要する人材育成に力を入れていることが報告された。また、本協議会が基本指針の遵守に協力していることが労われた。

甲斐知恵子様：動物実験は 4 つの法律に縛られていること、また、獣医・畜産関連の大学が一部の動物実験反対団体の活動の対象となるなど諸問題が出てきていることから、動物関係団体の関連会議が昨年度開催されたことが報告された。国立大学法人動物実験施設協議会（以下、「国動協」という）の組織編成の経緯を説明され、今後も、国動協、公私動協ならびに厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会（以下、「厚労働協」という）の協力体制の継続と発展が提唱された。

塩谷 恭子 様：厚労働協には地方自治体の団体も参加するようになったことから、本年度において、厚生労働省所管の地方自治体法で規制される小規模施設が、日本実験動物学会による外部検証を受審するための準備を行うための外部検証事業を、厚労働協が立ち上げる予定であることが報告された。また、将来的には、公私動協ならびに国動協との協力体制のもとに、統一された all Japan の検証事業を立ち上げたいとの抱負が述べられた。また、塩谷先生が大会長として 2020 年 5 月 23 ～ 25 日に、実験動物学会総会を大阪で開催することが報告され、協力依頼がなされた。

大曾根 誠 様：動物愛護団体からの意見に基づいて調査した結果、6 割以上の実験動物施設に獣医師がいること、および、マウス・ラットのみ飼養保管している施設において獣医師不在のケースが多かったことが報告された。また、基本指針の遵守が提唱され、特に、動物実験を外部委託する場合には委託先が基本指針に従っていることを確認してから動物実験を委託するよう強調された。さらに、基本指針周知のために、昨年同様、厚生労働省所管の機関に対して本年の秋に研修会を開催する予定であることが報告された。

## 6. 議長選出：

下田耕治副会長のもとで議長選出の手続きが行われ、鈴木さつき代議員（日本歯大）が議長に選出された。

## 7. 議 事：

### (1) 報告及び承認

#### ① 平成 29 年度会務報告及び活動報告

喜多正和会長（京都府立医大）から、平成 29 年度定期総会、第 23 回シンポジウムおよびサテライトミーティングの開催、会誌（公私動協年報 No.25）の発行、平成 29 年度役員会の開催、ICLAS モニタリングセンター運営検討委員会への出席、平成 29 年度国動協総会への出席、動物実験関連団体円卓会議への出席、実験動物飼養保管等基準解説書研究会への出席、獣医系教員団体役員と実験動物施設協議会役員の意見交換会への出席、全国医学部長病院長会議

への出席、京都大学第5回ライフサイエンス法令セミナーでの講演、外部検証説明会での講演および公私動協会員所属機関への「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準の解説」の配付が、総会資料に基づいて報告された。さらに、全ての委員会における平成29年度活動報告がなされた。これらについて議長が採決を諮り、賛成多数で承認された。

② 平成29年度公私立大学実験動物施設協議会役員選挙結果について

選挙管理委員会の秋元敏雄委員長（日本医大）から、「平成29年度公私立大学実験動物施設協議会役員選挙結果（別添資料5）」が報告された。

③ 平成30年-31年度会長・幹事・監事について

喜多正和会長から、自らが会長としての信任を得て平成30-31年度の会長を務めることが宣言された。また、総会資料の役員名簿の通り、平成30-31年度の幹事、会長指名幹事ならびに監事を委嘱することが報告された。これについて議長が採決を諮り、賛成多数で承認された。

④ 平成30-31年度委員会について

喜多正和会長から、新しく動物実験適正化委員会を設置したことが報告された。また、総会資料の委員会委員名簿の通り、平成30—31年度委員会の委員長並びに委員を委嘱することが報告された。これについて議長が採決を諮り、賛成多数で承認された。

⑤ 平成29年度会計報告

下田耕治副会長・事務局長から、「平成29年度会計収支計算書」および「財産目録」の内容を説明され、会計報告がなされた。

⑤ 平成29年度監査報告

久保 薫監事（奈良県立医大）から、予算の執行が適正かつ妥当であった旨の会計監査報告がなされた。

議長が採決を諮り、平成29年度会計報告ならびに平成29年度監査報告は賛成多数で承認された。

⑥ その他

無し

(2) 審議事項

① 平成30年度事業及び活動計画（案）

喜多正和会長から、「平成30年度総会資料」を資料として本総会を開催していること、会誌「公私立大学実験動物施設協議会年報 No.26」を発行予定であることおよび役員会の開催を予定していることが報告された。さらに、会員施設の外部検証の実施を推進すること、法令遵守の周知を図ることおよび国動協ならびに厚労働協等との連携を強化することを運営方針とすることが述べられた。

引き続き、総会資料に基づいて、全ての委員会の委員長から各委員会の委員の紹介ならびに活動計画（案）が報告された。

田中聖一学術情報・広報委員会委員長（福岡大）からは、メーリングリストおよびホームページのメンテナンスを継続することが報告された。また、公私動協会員専用ホームページ（HP）にアクセスするためのパスワードを翌週の6月4日9:00から変更予定であることおよび新しいパスワードが報告された。

また、寺田 節教育・研修委員会委員長（獨協医大）からは、実験動物管理者のための教育訓練を6月1日（金）午前中に沖縄コンベンションセンターで実施したことが報告された。また、マウス・ラットの生殖技術の実技研修会を8月9日（木）～10日（金）に日本獣生命科学大学を会場として企画していることが案内された。

さらに、國田 智バイオセーフティ委員会委員長（自治医大）からは、公私動協 30 周年記念事業の一環として会員所属機関に配付する「実験動物の感染症 その影響と対策」の CD-ROM の内容の説明があった。同じく公私動協 30 周年記念事業の一環として会員所属機関に配付する「何でも質問箱集」においては、長尾静子アドバイザー委員会委員長（藤田保健衛生大）から、誌面に掲載する写真や図等の募集があった。

また、遺伝子組換え動物実験委員会の鈴木 真委員長からは、遺伝子組換え動物を施設に導入して飼育するための教材を作成中であること等が報告された。組織・制度検討委員会の若井淳委員長からは、「公私動協資料等の会員利用に関する申し合わせ事項」（別添資料 1）について報告があった。評価・検証制度検討委員会の下田耕治委員長からは、外部検証の受審申込締切日は 7 月末ではあるが、早めに手続きするようにとの提唱がなされた。記録・編集委員会の久保 薫委員長からは年報 26 号の発行を 8 月末に予定していることが報告された。また、調査委員会の岡田利也委員長が都合により欠席であったため、代理として久保 薫委員から、例年通り「動物実験施設の現状調査」を行うことが報告された。なお、本年度において新しく設置された動物実験適正化委員会の佐加良英治委員長からは当該委員会が新規入会希望施設における動物実験の適正化を支援するためのものであることが説明された。また、選挙管理委員会の秋元敏夫委員長からは次年度に実施予定の役員選挙の準備を行う予定であることが報告された。

上記の各委員会からの報告について会員からの質疑は無かった。その後、議長が採決を諮り、活動計画（案）は賛成多数で承認され、活動計画として成立した。

## ② 平成 30 年度予算（案）

下田耕治副会長・事務局長から、「平成 30 年度収支予算案」が提示され、予算案には本協議会の 30 周年記念事業の費用が含まれることが説明された。会員からの質疑は無く、議長が採決を諮り、収支予算（案）は賛成多数で承認された。

## ③ その他

無し

## 8. 表彰

公私動協役員在職中に急逝された、安藤隆一郎先生（東北医薬大）の長期間にわたる多大な貢献に対し感謝状が贈呈された。また、技術研修会の会場提供等に貢献していただいた、日本獣医生命科学大学に対しても感謝状が贈呈された。

## 9. その他

### ○平成 31 年度定期総会の開催について

平成 31 年度定期総会は以下の通り開催予定である旨が、担当する田中聖一代議員（福岡大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。

日 時：平成 31 年 6 月 14 日（金曜日） 13：00～17：00（予定）

会 場：福岡大学

〒814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1

電話番号：092-871-6631（代表）

## 10. 閉会の辞

鈴木 真代議員から閉会が宣言され、公私動協平成 30 年度定期総会が閉会した。

## 資 料：

1. 公私立大学実験動物施設協議会 平成 30 年度定期総会資料
2. 平成 30 年度公私立大学実験動物施設協議会総会配付資料 2018 年 6 月 1 日 文部科学省研究振



興局学術機関課

3. 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針について 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課

【第23回シンポジウム】14:50～17:00

座長（下田耕治（慶応大）・佐加良英治（兵庫医大））の進行のもとで、「実験動物の飼養保管基準の解説書」について講演と質疑が行われた。要旨は総会資料に掲載してある。

1. 序章（動物愛護管理法の沿革）並びに 第5章 準用及び適用除外

川越 匡洋（環境省 自然環境局 総務課 動物愛護管理室）

2. 1章 一般原則 と 2章 定義 喜多 正和（京都府立医大）

3. 3章 共通基準 國田 智（自治医大）

4. 4章 個別基準 三好 一郎（東北大）

【平成30年度サテライトミーティング】

総会およびシンポジウムの終了後、平成30年6月1日（金）17:00～19:00に、沖縄コンベンションセンター会議場B1において平成29年度サテライトミーティングが、本総会の担当者である鈴木 真代議員の司会のもとに行われた。鈴木 真代議員からは、沖縄科学技術大学院大学の動物実験施設における感染症統御における計画について紹介がなされた。

出席会員（施設）数は75、出席者総数 111名（内、代議員とオブザーバー：107名および来賓4名：塩谷恭子先生、大曾根誠様、今井俊夫様、三好一郎先生）であった。

以上